日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク
2015年10月16日 ニュースレター No.9

連絡先：大阪市生野区桃谷4-6-17
Email：info@ianfu-kansai-net.org
HP：www.ianfu-kansai-net.org
blog：ianfukansai.blog.fc2.com
振込口座：00980―3―209232
口座名義：日本軍「慰安婦」問題
・関西ネットワーク

アベ政治を許さない

再びこの国を誤った方向に進めないために、私たちはあきらめず、闘い続けます！

私たち関西ネットは、日本軍「慰安婦」問題を通して、安倍首相や橋下市長に植民地支配や侵略の加害の歴史と向き合うことの大切さを訴え続けてきました。戦後70年の今年こそ、過去の歴史を省みて、アジア、とりわけ東アジアの人々と平和への新しい第一歩を踏み出す年にしたいと強く願っていました。しかし安倍政権は、この国を再び「戦争をする国」へと根底から変えつつあります。私たちは、断固抗議します！

◆戦争法を許さない！

安倍首相のやることは、許せないことばかりです！

2012年12月、第二次安倍政権が発足しました。安倍首相は「戦後レジュームからの脱却」を掲げ、憲法破壊をめざしています。日本はギリシャに次ぐ負債大国ですが、安倍首相の目はそこには向いておらず、今年の4月の訪米時には「アベノミクスを突き詰めていくと、防衛費を増やすということにつながる」とまで発言しています。生活を不安定にする非正規雇用拡大政策を進めていますが、自衛隊員を増やすための伏線でしょうか。今や、子どもの6人に1人が貧困という、あってはならない影響まで出てきているというのに。また、安倍首相は突然、「一億総活躍社会」を言い出しましたが、2018年から道徳を正規の教科にすることも決めています。国家が国民の身も心も一まとめにして、どこへ持って行こうというのでしょうか。福島原発事故解決のメドさえ立っていないのに、安倍首相は原発再稼働を進め、原発輸出のトップセールスもしています。

しかし、やはり一番ひどいのは、主権を持つ日本国民ではなく米国政府の方を向き、この国を米国に協力して再び「戦争をする国」へと戦争法を成立させたことではないでしょうか。当然、今までになく全国津々浦々で、若者も戦争を経験している高齢者も子ども連れの女性たちも、自分で考え自分で決め、反対のために立ちあがりました。しかし、安倍首相は決して耳を傾けようとしませんでした。

安倍政権は、2013年12月6日に特定秘密保護法を制定、2014年4月1日に武器の輸出・開発・製造などを可能にする防衛装備移転3原則を閣議決定、7月1日には解釈改憲で集団的自衛権行使容認を閣議決定と、暴走を続けました。

その後、今春の連休に訪米し、4月27日、なんと、戦争法成立を見越して、自衛隊と米軍の役割分担を決めた防衛協力（日米ガイドライン）の改定を行いました。29日には米国議会で、あろうことか、安倍首相が「安保法制を夏まで

水曜集会に参加しましょう！

梅田・ヨドバシカメラ前
毎月第1水曜日　19:00～
阪神間　毎月第2水曜日　18:30～
神戸市内　毎月第3水曜日　18:30～

に成立させる」と発言したのです。この首相の約束発言に、どれだけ多くの人々が耳を疑ったことでしょう。

しかし、これだけで終わらず、後に、防衛省制服組の暴走も次々と明らかになります。河野統合幕僚長が昨年末の訪米時、米軍幹部に「安保法制は夏までに成立」と回答していました。さらに、自衛隊統合幕僚監部が、５月に衆議院で戦争法案の審議が開始されるのと同時に、８月の成立を見込んで、自衛隊と米軍の共同軍事作戦の計画書を作成していたことも明らかになりました。その中では、なんと、自衛隊を「軍」と表記していたのです。安倍政権は今年の３月、防衛省の制服組（自衛官）と背広組（官僚）が対等な関係で防衛相を補佐するよう、制服組の影響力を増大させています。これでは、制服組（=軍）が暴走して、再びあのような歴史が繰り返されはしないかと、今から非常に心配です。

メディアの世論調査では、約６割が法案に反対、約８割が今国会での成立には説明不足と答えているのに、安倍政権は憲法違反、立憲主義破壊、民主主義破壊を平然と行いつつ、９月19日、安保関連法=戦争法を強行成立させました。安倍政権の暴挙を許さない！

◆安倍談話を許さない！

８月14日、「日本軍『慰安婦』メモリアルデー」のその日、安倍談話が発表されました。つながりの悪い小さい文をたくさん並べた、非常に読みづらいものです。戦争法で軍事化を決定づけ、談話で歴史修正主義の認識を固定化しようというのが安倍首相の目論見です。従って、私たちが願うような、加害国の首相として植民地支配責任や戦争責任を果たそうという内容のものではまったくありません。

安倍談話では、台湾や朝鮮の過酷な植民地支配についてほとんど触れていません。朝鮮の植民地支配への道を拓いた日露戦争については反省をしていないどころか、この戦争をしてよかったかのように書いています。「隣人であるアジアの人々が歩んできた苦難の歴史を胸に刻み」と語った時、朝鮮民主主義人民共和国が除外されているのも許せないことです。植民地支配や侵略の犠牲者について述べた文は、責任を語る言葉もなく、「痛惜の念、哀悼の誠、断腸の念」等の言葉を繋いだだけの奇妙なものです。自国の犠牲者数300万人は書き込んだのに、それをはるかに上回るアジア・太平洋地域の犠牲者数2000万人は明記していません。「慰安婦」被害者のことは、「深く名誉と尊厳を傷つけられた女性たち」と書いています。安倍首相の今までのこの問題への対応を思い起こすと、「その事実を認めたくないから『慰安婦』とは呼ばない」という心が透けて見えますが、「傷つけられた」とは一体どういうことでしょうか。日本軍や政府の関与は明白なのです。「女性たちの心に常に寄り添う国でありたい」とも言っていますが、「彼女たちを何度も傷つけ続けているのは誰だ！」と、叫ばずにはおれません。

安倍首相は談話の中で、「繰り返しお詫びを表明してきた」、「子どもたちに謝罪を続ける宿命を背負わせてはならない」と述べています。これは、「過去のことは、この安倍談話でもう終わりにする」ということの表明でしょう。しかし、お詫びも謝罪も相手が受け入れてくれて、初めて実現できることです。安倍首相が犠牲者について書いている文には主語がないのに、米国・豪州・欧州諸国に戦後の支援のお礼を言う時には、しっかりと「私たちは」と書いています。首相は、被害者の立場に立って、この談話を読み返してみたのでしょうか。安倍首相が終わらせたいと思っても、これでは無理です。被害者たちが受け入れることができなければ、解決ではありません！

安倍首相の最終目的は、祖父岸信介元首相の願いを継ぐ平和憲法破壊です。なんと、９月11日、まだ戦争法案を国会審議中に、「憲法改正は来年夏の参議院選後に」と発言していたことも明らかになっています。私たちは、アジアの、とりわけ東アジアの人々とともに平和な世界を創ることをめざしています。そのためにも、平和憲法を手離すわけにはいきません。安倍首相は、「戦争をする国」の大きな流れに私たちを巻き込もうとしていますが、そうはいきません。一度気付いた私たちは、あきらめません。再び戦争をしないために、闘い続けます！

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

報告　サンフランシスコにおける「慰安婦」碑建設をめぐる動き

在米韓国人三世の美穂キム・リーさんからサンフランシスコ市議会に7月12日提出された「慰安婦」碑建設のための決議案に対し、これを阻止しようとする日本の右派の攻撃が広がっているとして、支援を求めるメールが流れてきたのは、8月末のことだった。

とりわけ、大阪市では橋下市長が姉妹都市解消をちらつかせて、サンフランシスコ市に書簡を送るなどの圧力をかけているという情報を受けて私たちは直ちに行動を開始した。大阪市役所に連絡したところ、前日の27日付で書簡を送付したことが分かった。直ちに美穂さんの訴えをもとにサンフランシスコで起こっていること、橋下市長への抗議を呼びかけるチラシを作成し、配布した。併せて、現地の要請を受けて、今後予定されている議会公聴会や決議案採決に向け、「決議文」に日本市民として連帯を表明する賛同団体署名を募った。わずかな期間に、大阪を中心に20余団体がこれに応じてくれた。

その後、公表された橋下市長の書簡を手にした私たちは怒りを抑えられなかった。8ページにわたって「慰安婦はどこの国にもあった」「なぜ日本だけが言われるのか。アンフェアだ」など、加害国としての責任を否定し、被害者を侮辱する持論を述べたものだった。直ちに、橋下市長に宛てて抗議文を送った。

9月17日、いよいよ公聴会開催日を迎えた。韓国から「慰安婦」被害当事者である李容洙さんが出席した。支援者らが「慰安婦」被害者を象徴する黄色の蝶をデザインしたお揃いの黒いTシャツに身を包んで見守る中、李容洙さんは「後世に偽りのない、真の歴史を伝えるために」と碑の建設を訴え、日韓が隣国として仲良くしていくこと、世界の女性の人権のために行動していくことを訴えた。一方、全米と日本からは碑の建設に反対するメンバーが100人も駆けつけた。彼らはこの場で李容洙さんの証言は虚偽であり、売春婦で、うそつきだと述べた。さらに、「慰安婦は日本だけのことではない」「強制動員されたという証拠が不十分」「日本人に対する逆差別的な像になる」等々、次々と「慰安婦」碑の設置中止を求めて発言した。何よりも、日系人の戦時中の悲しい体験、戦後も日系だからと受けてきた差別やバッシングの辛い記憶を利用して日系社会を分断することは、卑劣で許しがたい行為だ。公聴会は3時間以上に及び、賛成派と反対派が列をなして議論が続いた。

そして9月22日、「慰安婦」碑の建設は議会の満場一致で可決された。

米国での「慰安婦」関連の碑や像は、すでにカリフォルニア州グレンデールやニューヨーク州ロングアイランドなど数カ所にあるが、サンフランシスコのような大都市で設置が決まったことは初めてのことだった。

今後も碑の建設までには様々な困難が待ち受けているだろう。また、安倍政権のグローバル・キャンペーンの一環として反対派の行動も予想される。だとしても、私たちは今回のような国際連帯の力で撥ね返していくだろう。日本政府が真摯に「慰安婦」問題に向き合い、この問題が解決される日まで。

※美穂キム・リーさんよりこの間の現地報告を投稿していただきました。

（P）

サンフランシスコ市議会で「慰安婦」碑建設が満場一致で可決!

美穂・キム・リー　（ＮＰＯ戦略コンサルタント・オックスフォード大学修士課程国際人憲法／「日本多文化救済基金」共同代表）

今回の決定は、華僑、日系リーダーらによって1994年に設立された「南京大虐殺事件補償委員会」(RNRC)が、４～５年前から市に対して働きかけてきた成果だった。今年度の外交予算は、安倍政権は、2014年度に比べて３倍の外交予算を確保したという。その理由として世界の歴史認識を「訂正」することにあるとされるが、その意欲を肌で感じ取った短期決戦だった。最初の公聴会が行われたその週末には、沖縄の高里鈴代さんらとともに軍事化や基地反対運動を率いる女性のネットワークなどの賛同もあって、小規模ではあるが、緊急女性基金(UAF)から助成金を確保できた。私たちは「ただの銅像ではない、銅像が象徴する女性への人権侵害の事実が抹消される危機に瀕している」と訴えた。そして、この決議案サポート運動を通して、「コミュニティの連帯を国境やセクター、ジェンダー、世代なども越えてさらに深め、今後の平和運動を国際的に展開するための力量を強

化したい」とアピールした。何よりも、弱者でありながら人権侵害の摘発をするとまず標的にされる女性たち、とりわけマイノリティ、当事者の女性たちの問題を優先してサポートするという、進歩的組織の方針は、公民権運動が勝ち取ってくれたものであり、日本のマイノリティ・ディアスポラとして改めてありがたかった。

さっそく関心を持つグループらの集まりをよびかけた。「脱植民地化を目指す日米 フェミニストネットワーク」（FeND）の小山エミさんをお呼びして、右派勢力の権力構造・プロフィールのプレゼンテーションを依頼した。権力構造分析を事前に行うことで、幸い「これは中国の仕業だ」や、「『慰安婦』碑のせいで日系人はまた差別を受ける」と惑わされていた人たちも、日本政府や右派の主張を知って、「もう少しで丸め込まれるところだった」と語った。この最初の呼びかけの場で、連合体が誕生した。2ヶ月の間に、５団体から 10 団体以上が連なった。フェミニスト団体、帰還兵の平和団体、学者、労組、華僑、日系人、宗教者、オランダ系ディアスポラ団体等、実に多様な顔ぶれだった。

９月公聴会への李容洙ハルモニの招請はロサンゼルスの有志らが支援してくれた。

日本の各地から届けられた決議案賛同の書簡は、21 通にのぼった。橋下大阪市長からの抗議書簡に関しては「でも彼は、大阪市の多くの人々の声を反映していない」と、私たちは日本から賛同書を送ってくれた団体のリストをかざした。記者会見でも、日本各地からのサポートがあり、日本の平和運動や教員からも直に、立ち上がってくれとの依頼があったと発言した。これは私たちの主張の信憑性をかなりアップしたことは間違いない。今後も日本との連帯を基盤に強く訴えていきたい

10 年前、戦後 60 周年記念日には、VAWW-NET や、女たちの戦争と平和資料館（ｗａｍ）などのよびかけた世界行動の日に賛同し、故ユリ・コウチヤマさんや、辛淑玉さんらとともに、「慰安婦に真の正義を！」と綴ったバナーを先頭に、朝鮮では喪に服す意味の真っ白なチマ・チョゴリをまとって日本領事館で「トゥージェン！カイホー！マキバカ！」（朝鮮語、日本語、タガログで、闘争、解放の意）と叫んでマーチングした。その数年前には、私たちアジア太平洋地域出身者の若い女性オーガナイザーらが「女性の平和祭り」などを企画して紛争時の女性に対する国家暴力に関する啓発を盛り込み、長期にわたって草の根市民・当事者運動の強化を図るエンパワーメントを続けていた。これらの共通の歴史と関係性が確立できていたので、短期間で連合体の発足にこぎつけることができた。

RNRC の創立者の元裁判長らや華僑の商工会理事らはすでに市庁の内部事情を詳しく把握していたので、敏速に行動をとることが可能だった。が、その反面、日本から右派の反発があることは予期できていても、まさか、今まで手を取り合って共に米国内で人種差別と闘ったり、日系人収容に対する補償と謝罪の要求を行ってきた地元の日系人コミュニティのリーダーらが反対に出たのは RNRC にとっても驚きだったという。

私の観察では日本の右派側は次の「暗黙の」仮定に立ったうえで、様々な議論を唱えている。それは、１、地政学の枠内で問題を表現する＝中国と韓国が日本に仕返しを企んでいる　２、日本は弱者でいじめられっ子＝被害者として同情に値する　３、国家と個人の同一化＝日本人だったら反対に決まっているし、韓国人だったら賛成に決まっている。この３点の仮定は今後も効果を増していくだろう。決議案のサポート要請のメールを日本語でも幾つか送ったが、進歩的で知られるサンフランシスコ市内の日系教会の某日本人牧師からは、こんな返事が返ってきた。この３点を如実に踏まえた発言だ。

「安倍首相は別として、日本の歴代の総理大臣が合計 60 回も謝罪してきましたが、韓国側からの反日はひどくなるばかりです。いくら謝罪しても赦しては貰えないのだから、赦してもらうのは諦めようというのが、ほとんどの日本人の気持ちだと思います。そんなところに、慰安婦像を建てて、永遠に許さないぞと世界中に宣言するというのはいかがなものでしょうか。多くの日本人の『申し訳なかった』という感情が嫌韓感情に移行してしまうのではないかと恐れています･･･韓国の人たちには本当に申し訳ないという気持と、もういい加減に勘弁してほしいという気持が入り混じっている昨今です。こんな時、『キリストが私を赦してくださったように、私たちもあなたがたを赦します。一緒にこれからのことを考えていきましょう』と言って下さる韓国人がいてくれればと願うのは、甘いのでしょうか」。

サンフランシスコは、米国内で今まで「慰安婦」碑を建設した自治体と違って、初のメジャー都市である。それなりに、日本政府も、企業も、右派系市民グループも、力を入れているのだろう。日本語で情報発信するので、「慰安婦は嘘つきです」というチラシの前を素通りしてもほとんどの人は読めない、要するに「ばれない」特典をうまく利用している。現在サンフランシスコ在住の日本人新移民らの、日本語でのフェイスブックグループも立ち上がり、プロパガンダは癌のように浸透している。「慰安婦」碑建設の過程で巻き返せるように、連帯と平和のビジョンが今後も不可欠だ。

集会報告

8.14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デーを国連記念日に
「今こそ謝罪・賠償・真の解決を！」

3回目の「慰安婦」メモリアル・デーの取り組みとして扇町公園で集会を開催しました。まずはプレ企画として「水曜デモの歌」を歌った後、ダンス「シャッフルアリラン」を披露。開会2時間前から集まって練習した甲斐あって、10人以上で楽しく踊ることができました。

午後6時からの集会では、翌日の「戦後70年　東アジアの未来へ！宣言する市民」集会のため沖縄から来阪されていた高里鈴代さんにアピールをしていただきました。24年前金学順さんが被害者として名乗りでられた際、記者会見の場に立ち会われた高里さんは、報道陣からの事実確認のための詳細な質問に学順さんが懸命に答えておられた様子や、沖縄で一足先に被害証言をされた裵奉奇さんに学順さんが心を寄せておられたことを話してくださいました。まさにメモリアル・デーにふさわしい内容で、そのお話に涙ぐむ参加者も多かったのではないでしょうか。ついで、若者たちによるサムルノリ。「慰安婦」被害者の皆さんに届けようとするかのように、打楽器の音色が夕刻の扇町公園に響き渡りました。最後に、寸劇を上演。そこでは金学順さんが、「女性たちが人身売買の犠牲となり、筆舌に尽くしがたい痛みと苦しみを経験されたことを思うと、心が痛む」と米国で発言した安倍首相に対して、日本軍の加害責任を指摘。そして、安倍首相に日本政府が今なすべきことを教えようと、200名近い参加者が「謝罪」「賠償」「解決」のボードを掲げました。

午後7時、元気よく梅田までのデモに出発。沿道の人々に、「慰安婦」問題の解決の必要性と、平和の大切さを訴えました。　（たな）

日本軍政下の性暴力とは？
―インドネシア南スラウェシで被害者の声を聞く―

9月4日、大阪市総合生涯学習センターで、インドネシア地域研究の専門家鈴木隆史さんのお話をうかがいました。鈴木さんはスラウェシ島に滞在するうち被害女性の存在に気づき、2012年から聞き取りを始められました。直接、被害女性やその娘さんに問いかけて話を引き出しながら撮影されたたくさんの証言映像の中から、今回は3人の女性の証言を紹介してくださいました。

道を歩いている時、銃を突きつけられてトラックに荷物のように放り込まれ、竹で作られた慰安所で8ヶ月近く、何人もの日本兵に強かんされ続け、ようやく解放されて家に帰ると「日本人とセックスした女は汚い」と言われて両親に追い出された女性。

日本軍が作った飛行場の近くに住んでいて、日本兵に銃で脅され、家から100歩も歩かない場所にある壕に、毎夜強かんされるために通い続けねばならなかった女性。

この方は、証言の翌年、鈴木さんが再訪した時には、もはや故人となっていました。

13歳の時、母親と一緒に製糸工場で働いていて、すぐ隣にある慰安所に連れて行かれ、約一年間、同じ年頃の少女たちと共に大きな一つの部屋に監禁されて、親にもあえず、小部屋に呼び出されては一日数人の日本兵の相手をさせられ続けた女性。

インドネシアでは、日本政府が経済援助と引き替えに被害の告発を押さえ込んだという歴史事実があり、その中で被害女性たちは何の支援も受けず、人権を踏みにじられ続けて戦後の長い時間を過ごしてこられました。鈴木さんに会って初めて人に被害のことを話したという方もいます。

今、私たちに何ができるか、事実の前で真摯に考えたいと思います。　（たな）

学生たちと共に学ぶ 加害の歴史と向き合うということ
韓国・中国スタディツアー報告

9月30日、大阪市総合生涯学習センターメディア研修室で、夏休みを利用してスタディツアーに参加した2人の大学院生から話を聴かせてもらう機会を持ちました。

中国のスタディツアー報告では、南京大虐殺紀念館を訪問した時の写真が披露され、小学生が沢山見学している様子が伝わりました。また、展示の説明文に日本語表記もあることが紹介され、報告した学生さんは、「ああ私たち日本人に伝えようとしている」と感じたことを話されました。また、近郊の村に虐殺の跡を訪ねた時のことが豊富な写真と共に報告され、事実の前に衝撃を受け、現地に行かなければわからないことがあると思ったとの言葉は、スタディツアーの意味を物語っているように思われました。

平和ナビ紀行でソウルを訪ねた学生さんの報告も豊富な写真を中心としたものでした。1000人を超える参加者による8月12日水曜デモや、その夜の「慰安婦」メモリアルデーろうそく集会への参加報告からは、韓国の熱気に満ちた運動に触れた高揚感が伝わってくるようでした。運動自体に楽しさがあり、みんなが参加して作っていくという感覚があることを韓国から学んだと話されました。そして、「慰安婦」問題は日本の問題であり、そこに存在する痛みを知らねばならないと話を締めくくられました。

関西ネット運営会議メンバー以外で報告を聴いたのは、皆、学生さんでした。私たちは、若い人たちの間で密度の濃い真摯な質疑応答や意見交換がされるのを頼もしい気持ちで眺めました。それと同時に、みずみずしい感性によって捉えられた歴史の真実を通して、また改めて、真実を捉え直せるような気がして、新たに多くを学び取ることができました。　　（たな）

戦後70年 東アジアの未来へ！ 宣言する市民

戦後70年の今年、私たちは加害の歴史に向き合い、東アジアの人々と平和な未来を築いていこうと、関西で思いを同じくする市民とともに「戦後70年 東アジアの未来へ！宣言する市民」を立ち上げました。多くのみなさんがその趣旨の呼びかけに賛同、各集会に参加・協力していただきました。ありがとうございました。

安倍政権は違憲の安保法案を憲法解釈で押し通すことで「戦争ができる国」を加速させてきましたが、「戦後レジュームからの脱却」によってその体制を整えようとしています。

「宣言する市民」は、歴史わい曲の安倍談話を許さないために、「市民宣言」の作成と加害の歴史を確認しあう集会を積み重ねました。5月11日の立ち上げ集会に始まり、6月21日には日韓条約50年に関する集会、7月7日には「市民宣言」を発表し、記者会見で取り組みをアピールしました。8月15日の集会では、日本政府などに23の要求をあげて「私たちは行動します」を発表し、「市民宣言」の具体化を示しました。そして後日、政府に提出しました。また、8月14日に出された安倍談話に対して「戦後無責任国家の象徴的存在だ」と抗議声明を出しました。

全国各地でも戦後70年の市民の宣言が取り組まれ、8つのグループが連絡を取り合って7月29日、衆議院議員会館で「安倍首相の歴史認識を糾す『戦後70年市民宣言』」を開き、翌30日には内閣府に要請行動を行いました。

「宣言する市民」としては活動に区切りをつけましたが、安倍談話による歴史の書き換えを許さず、安保法制に反対する取り組みを継続させ、平和な社会をめざしていきましょう。私たちは今回の取り組みを通して連帯を培ってきました。今後はこの連帯の輪をさらに強く広げて行動していきましょう！

（Rengyou）

取り組みの詳細はＨＰにて。
http://70project.web.fc2.com/

賛同とご協力、ありがとうございました

東大阪市、河内長野市、四條畷市、大阪市、泉佐野市、次々と歴史歪曲教科書が……

育鵬社教科書採択を許さない！

日本軍「慰安婦」問題が教科書の本文から消えたのが 2002 年、完全に姿を消したのが 2012 年。つくる会教科書が世に姿を現したのが 2002 年。そして東大阪で育鵬社教科書が採択されたのが４年前の 2011 年でした。

教科書から「慰安婦」記述が姿を消した原因は、「新しい歴史教科書をつくる会」系の活動の伸張にあります。

これまで育鵬社教科書のシェアは歴史 3.7％、公民 4.0％。それが今回、歴史 6.2％、公民 5.7％にまでシェアを伸ばしました。上昇分は丸々大阪が埋めたことになります。大阪府の中学生の５人に１人が育鵬社教科書で学ぶことになったのです。

そして今、松井知事の指示を受けて、「慰安婦」問題を否定する高校向け副読本を今月中につくるとしています。

これ以上、「慰安婦」被害者の心を傷つける教育行政を許すわけにはいきません。次期採択時には、育鵬社教科書のゼロ採択を目指して、今から運動をつくっていかなければと決意しています。

育鵬社教科書が採択された５市について、全て報告したいところではありますが、紙幅の関係から大阪市の報告のみとさせていただきます。

今回の採択に備え、橋下市長は自分の言うことを聞くメンバーばかりに教育委員を入れ替え、着々と準備してきました。教育現場からの教科書の評価を無効化し、大阪市という巨大なひとつの採択区に合併させました。

その結果、今回の採択会議では、政治ゴロのような教育委員たちが意味も理屈も不明な歴史認識を数十分にもわたり披瀝し、そのくせ市民になんの「説得」すらないまま育鵬社の歴史・公民教科書を採択したのです。

特に犯罪的なのは、高尾教育委員です。高尾教育委員は 43 年間フジサンケイグループに席を置き要職を歴任した人物で、私たちがそのことを追及する直後まで大阪市のＨＰに「産経新聞大阪本社委託業務アドバイザー現職」と掲載されていました。大阪市教委は私たちの追及を受けて「2015 年 2 月末に退職」と白々しくも言いましたが、2 月とはなんと教科書検定結果が出るわずか 1ヶ月前です。そして大阪市で採択されたのは、その半年後です。育鵬社はフジサンケイグループの 100％出資会社です。誰がどう見ても、高尾教育委員は育鵬社の利害関係人ではありませんか！

しかも育鵬社教科書の共同事業者である教育再生機構の機関誌に、4 回にもわたって寄稿しています。このことを追及すると、大阪市教委は「私たちの指摘を受けてから教育再生機構の活動内容について確認した」というものでした。原稿を寄稿しておきながら、教育再生機構がどんな団体か知らなかった？　そんな馬鹿なことがありますか！

しかも大阪市教委は、当の教科書採択の会議で市民の傍聴を締め出すという暴挙にでました。「静謐な環境」を理由にマスコミ以外の傍聴を一切排除し、傍聴したい人は別会場でモニターを見るしかありませんでした。抗議する人は、採択会場となった市立図書館で、暑い中、半日にわたり抗議を続けました。

育鵬社教科書は侵略戦争と植民地支配を肯定し、外国人差別を助長し、天皇制を賛美し、現行憲法を「おしつけ」と主張し、帝国憲法を民主主義的だったとします。「慰安婦」記述を教科書から削除させた元凶であるだけでなく、憲法の精神を踏みにじる教科書です。このような教科書を許しておく訳にはいきません。

大阪市教委や東大阪市教委は、育鵬社教科書を採択するために相当の無茶をしています。市民の要請に耳を塞ぎ、右翼的で独裁的な首長の意向におもねってきました。育鵬社の利益関係者である高尾委員の問題など、法律に抵触しかねない行為も行っています。4 年後の次期採択を待つまでもなく、闘える条件は十分に残っています。

「慰安婦」問題を後世に伝えるためにも、育鵬社教科書を許さない闘いを進めていきましょう。

（だい/子どもたちに渡すな！危ない教科書大阪の会にも所属）

大阪市の採択会場（市立図書館）で抗議する人たち

集会告知

11/23(月) PM

「慰安婦」問題の解決のために

扉をたたき続けよう！

韓国挺身隊問題対策協議会　尹美香共同代表をお迎えして

エルおおさかでお会いしましょう！

会計報告と活動協力金のおねがい

ニュースレター９号発送に際し、活動協力金をお願いする振込用紙を同封させていただきます。昨年８月１日の７号発送時にも振込用紙を同封させていただき、それ以降、今年 10 月５日までにお寄せいただいた活動協力金やカンパは 30 万１千円にのぼります。

また、今年６月末にニュースレター８号をお送りした際には、戦後 70 年企画への賛同をお願いし、多くの賛同金をお寄せいただきました。本当にありがとうございます。

関西ネットの会計状況は以下のとおりです。

2014 年　８月１日　会計残高　632,790 円
2015 年 10 月５日　会計残高　333,070 円

この一年あまりの間、２回の 8.14「慰安婦」メモリアルデー集会＆デモ、14 回の水曜デモ、映画会、「慰安婦」パネル展、４回の講演会などの取り組みを行い、その間に多くの支出が発生しました。それでも 30 万余りの残高があるのはひとえに皆様のご支援のおかげと感謝しております。

今後も安心して種々の取り組みを進められるよう、さらなるご協力をいただければ幸いです。

（今年に入ってから、ゆうちょ備え付けの振込用紙を使って、すでに活動協力金をお送りくださった皆様は、今回同封させていただく振込用紙についてはどうぞご放念ください。）

映画 “記憶”と生きる

「トントントン」と野菜を刻む金順徳（キムスンドク）ハルモニの姿や朴頭理（パクトゥリ）ハルモニの毒舌、そして挺対協のメンバーとの忘年会で真っ赤なセーターを着て踊っていた姜徳景（カンドッキョン）ハルモニの姿を、映画「ナヌムの家」を観て以来忘れられません。まるで彼女たちを前から知っているような錯覚に陥るほど、一人ひとりが愛おしいです。

しかしこの映画「“記憶”と生きる」では、ハルモニたち自らのカムアウトにあたっての逡巡や葛藤が描かれ、より深く彼女たちの内面と向き合うことになりました。特に第Ⅱ部の「姜徳景」が印象的です。私たちが知っている姜徳景さんは、水曜デモでリーダーとして叫び、「責任者を処罰せよ」を描き、日本の戦争責任を問い、断罪し、死の床にあっても「日本に行くからパスポートを」と力のない声ながらも強い意志で訴えていました。しかしここには私たちの知らない姜徳景がいます。施設に預けた我が子を知らぬ間に亡くしてしまったという痛恨の思いをはじめ、人間姜徳景の生き様の裏に最期までべったりと張り付いていた苦悩を描きだしています。この映画の中でのこの１シーンが、それを象徴しています。暗闇の中から真っ赤な花柄の上着と黒っぽいパンツ姿が顔面半分だけ浮かび上がり、片方の彼女の眼差しは彼女のすべてを物語るように潤んでいます。この場面が今でも瞼から離れません。

20 年以上も前にお蔵入りしていた映像を橋下発言により改めてこの世に出さざるをえなかった土井敏邦監督が、生前の彼女に、ここまで寄り添って彼女の独白を映像に収められたことに深い感謝と敬意を表します。試写会当日は土井監督のトークもあり、今こそ、日本の加害を語る時だとの強いメッセージがありました。日本軍「慰安婦」問題やピースおおさか等の問題に関わるものとしては、心から力強い味方を得たと、本当に感動しました。　（K・M）

彼女たちは確かに存在した・・・